

公民としての資質・能力の基礎の育成を目指して

～学習履歴の利活用による、自らの学習を調整する力の育成と教師の指導改善の方策～

北海道教育大学附属函館中学校 山下 尚也, 山口 輝晃

1 はじめに

中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）において、社会科の教科の目標として示される「公民としての資質・能力の基礎の育成」は、中学校社会科学習の究極の目標であるとされ、教育基本法及び学校教育法に規定される「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと」と密接に関わるものであるとされる。

また、令和 3 年 1 月の中央教育審議会にて、『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～すべての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと、協働的な学びの実現～が掲げられ、この内容を取りまとめた教育課程部会における審議のまとめの中で、今後の教育の在り方について、「学習指導要領において示された資質・能力の育成を着実に進めることが重要であり、そのためには新たに学校における基盤的なツールとなる ICT も最大限活用しながら、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する『個別最適な学び』と、子供たちの多様な個性を最大限に生かす『協働的な学び』の一体的な充実が図られること（中略）カリキュラム・マネジメントの取組を一層進めることが重要」¹⁾と述べられた。

本校社会科はこれまでも、「公民としての資質・能力の基礎の育成を目指して」を教科主題に設定し、それに伴う授業実践と指導方法の工夫・改善を行ってきた。とくに「単元を貫く学習課題」の設定と、その解決のための「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動」は、その資質・能力の育成を図るうえで有益であったと考えている。

今年度は、これまで本校で蓄積してきた活動の流れを生かし、かつ『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一層推進する方法を模索していく。そのため今年度の社会科は教科研究副主題に、「学習履歴の利活用による、自らの学習を調整する力の育成と教師の指導改善の方策」を設定した。生徒は学習履歴や教師の指導履歴を活用し、それぞれの活動にあった『個別最適な学び』の実現を目指し、かつ学習履歴を利活用する過程で、生徒は学習活動の成果や多様な考えを共有し『協働的な学び』を実現する。そこに ICT の活用も踏まえた実践事例を蓄積し、公民としての資質・能力の基礎を育成するための方策を検討していきたい。

2 研究の経過

今年度は研究主題である「1人1台端末環境における指導と評価の一体化」を掲げて2年目となる。昨年度はCBTを活用し、生徒の学習状況の把握と学習改善および教師の指導改善に生かすべく実践を重ねた。昨年度実践による主な成果は、「知識・技能」に関わる内容に対して、「即時性」と「フィードバック」を通して、生徒の学習状況に応じて素早く学習改善を図ることができたということである。授業冒頭でのCBT実施は前時の学習内容の定着度合いを、また単元末でのCBT実施は内容のまとめりとしての定着度合いをそれぞれ測ることができ、指導改善に役立てることができた。

しかし、課題点として、「思考・判断・表現」に関わる内容に対するCBTでの出題がその長所を存分に発揮できたとは言えなかったという点が挙げられる。「即時性」を生かすためには、評価問題を「選択式」や「短答式」で作成することが望ましいが、「思考・判断・表現」の評価については、それら形式での解答からのみでは測り切れない要素が多いことが実状である。また、その学習内容の評価の方法として、レポート形式のものや、Google スライド等を使用した各種の制作物など多種多様なものを用いることが多かった。したがって、「思考・判断・表現」に関わるCBTを用いた評価は、あくまでも部分的な活用であり、「指導と評価の一体化」の実現を目指すためには、それ以外の学習成果物等の評価方法とその活用方法を模索する必要があるということである。

3 本年度の研究

今年で学習指導要領の全面実施から3年目となる。生徒の資質・能力の育成のみならず、カリキュラム・マネジメントの観点からも、指導と評価の一体化の充実が一層求められているところである。

その中で、「児童生徒一人一人のつまずきや伸びについて指導過程で評価する形成的な評価を行うこと」²⁾ および、「形成的な評価を生かしながら、学習指導要領に示す各教科の目標に照らして児童生徒が『おおむね満足できる』状況となるようきめ細かく指導・支援すること」²⁾ の重要性が述べられている。

そこで今年度は「学習履歴の利活用による、自己調整する力の育成と教師の指導改善の方策」を副主題に設定した。本校の研究総論（以下「総論」という。）では、各教科等の学習における学習履歴の利活用について、様々な評価の蓄積を1人1台端末環境下で行うことで期待される生徒の変容として「①生徒が自らの学習履歴をいつでも確認できる、②生徒が自らの学習履歴を利活用し、見通しをもって学習計画を立てることができる、③生徒が自らの学習履歴を利活用し、自らにあった学習活動を調整することができる、④生徒が自らの学習履歴を利活用し、学習を振り返ることができる」³⁾、という4点を挙げている。これら4点を踏まえ、「指導と評価の一体化」の実現をよりよく展開するための方策に関する検討を行っていきたい。

4 研究実践例

4.1 今年度研究に関わるこれまでの研究実践

本校では研究に関わり、各教科の「資質・能力整理シート」を作成している。また、社会科では学習指導要領や『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料の内容を踏まえ、単元のオリエンテーション等で生徒に該当単元での目標を示してきた。これにより、身に付けるべき資質・能力と学習活動のつながりを教師—生徒間で共有し、生徒も学習内容や身に付けたい資質・能力に対する見通しをもたせた。また、「単元のワークシート」を紙またはファイル形式で配布し、日々の学習内容を記録・蓄積し、自らの学習活動を調整したり、振り返ったりする目的で活用できるようにしていた。(図1)

単元	政治	経済	外交	国土	生活・文化	その他
1	問：あなたの考える「日本が戦争から立ち直った状態」とは、どのような状態ですか。単元開始前にその考えを書きなさい。 答：アメリカなどの支配下でなくなり、経済的に余裕が出た状態。					
2	日本国憲法公布 答：日本の中で新しい政治の仕組みが示され、立ち直りに向かって行こうとする様子うかがえる。また、GHQに命令される形で憲法を作成したため、国連軍の占領からの開放も近づいているのではないかと考えた。					
3	特別展覧 答：アメリカが韓国に軍を出し、日本が物資を発送されたことで日本に特需需要が訪れた。これにより、工業が発展し経済的に余裕が出たのではないかと考えた。					
4	経済の復興を支援した点 GHQの占領政策	経済の復興を支援した点 GHQの占領政策	サンフランシスコ平和条約			
5	色んな条約 答：外国と条約を結ぶことで関係が改善し一部の国士が返還されたことから、日本は立ち直りに近づいていると考える。しかし、返還された国士は一部のみであり、各国と日本の間にはまだ問題があった。					
6	戦後、GHQの占領政策により、日本は立ち直りつつあること、GHQの占領政策により、日本は立ち直りつつあること、GHQの占領政策により、日本は立ち直りつつあること	民間の努力により、日本は立ち直りつつあること	民間の努力により、日本は立ち直りつつあること	民間の努力により、日本は立ち直りつつあること	民間の努力により、日本は立ち直りつつあること	民間の努力により、日本は立ち直りつつあること
7	問：考え方の均質化によりぶつかり合いが減って国がまとまりやすくなったり、様々なものの普及により国内の経済格差が少くなり中流意識をもちようになったのではないかと。また、人々の暮らしはより快適になったと思う。					

図1 単元のワークシート (R4年度実践)

そして、CBTのフィードバックの活用については、実際に問題を解き、間違えていた場合には、教師からのフィードバックコメントと、関連する学習内容のリンクを授業使用資料や動画教材などを貼り付けることで、学習内容の振り返りや、今後の学習の調整が可能になるよう活用していた（図2）。

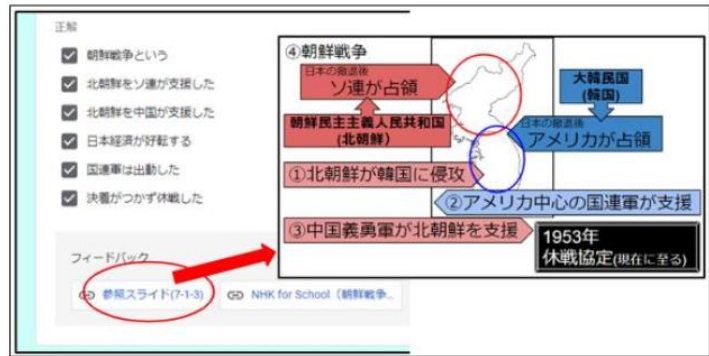


図2 CBTのフィードバック場面（R4年度実践）

これらの昨年度実践から見えた課題点は以下の3点である。

- ① 資質・能力整理シートで示す内容が、内容のまとめり（単元）を通して育成を目指すものであり、生徒にとって具体的なものとしてとらえ切れなかったという点。
- ② 単元のワークシートの記入内容が膨大で「集めて終わり」になるおそれがある点。
- ③ 単元のワークシートが単元ごとに複数の用紙・ファイルにまたがるため、単元を跨いだ学習の振り返りが行いづらいという点。

これらはすべて日常的にも実施しやすい手段であるがゆえに、実施タイミングや方法に明確な意図や根拠をもち、取組の精選を行う必要があると感じている。本年度は、これら取組の改善や学習履歴としての活用を進めるための授業実践を行った。

4.2 主に生徒が見通しをもって学習計画を立てる・自らの学習を振り返るための取り組みへの活用

今年度は、4.1.で述べた「単元の目標」（表3）で示された資質・能力を身に付けるために必要な具体的な内容を、生徒に分かりやすい言葉を用いてまとめたリストを作成した（以下「習得リスト」という。表4）。習得リストは各単元のオリエンテーションや各単位時間の開始時に生徒に示している。また、該当単位時間の学習に特に関わる内容には、習得リスト内に色付けをし、その時間で習得を目指すべき内容を特に明確化することで、単元の学習に見通しを立てて取り組むことができるようにした。なお、単元の目標と習得リストとの関連性については、図5で示した通りである。また、単元末に、習得リストの内容がどの程度習得できたか自己評価を行い、自らの学習に対する振り返りを行っている。（表6：「振り返りBoard」）。

第1章 世界各地の人々の生活と環境	
3つの柱	単元の目標
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・人々の生活は、その生活が営まれる場所の様々な影響を受けたり、与えたりすることを理解できる。 ・世界各地における、人々の生活やその変容をもとに、世界の人々の生活や環境の多様性を理解できる。 ・世界の主な宗教の分布を理解できる。
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の様々な条件に着目して、多面的・多角的に考察し、表現できる。
学びに向かう力 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究することができる。

表3 「単元の目標」

第1章 世界各地の人々の生活と環境			
3つの柱	習得・育成・涵養を目指す内容		
知識及び技能	世界の気候帯の名称と主な位置関係を理解できる。	表の数値を元に雨温図を作成することができる。	それぞれの気候帯に見られる特徴を気温や降水量、植生および衣食住などに整理してまとめることができる。
	それぞれの気候区分に見られる伝統的な暮らしと今の暮らしの違いを理解できる。	世界の主な宗教の分布や特徴を理解できる。	×
思考力、判断力、表現力等	「世界各地の人々の生活の様子は、気候のみから影響を受けている」という主張する人の意見に対し、人々の生活の特色や生活の変化などを関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。		
学びに向かう力 人間性等	世界各地の人々の生活と環境について、よりよい説明を行うための各地域の特徴や課題を主体的に追及し、粘り強く取り組むことができる。		

表4 「習得リスト」

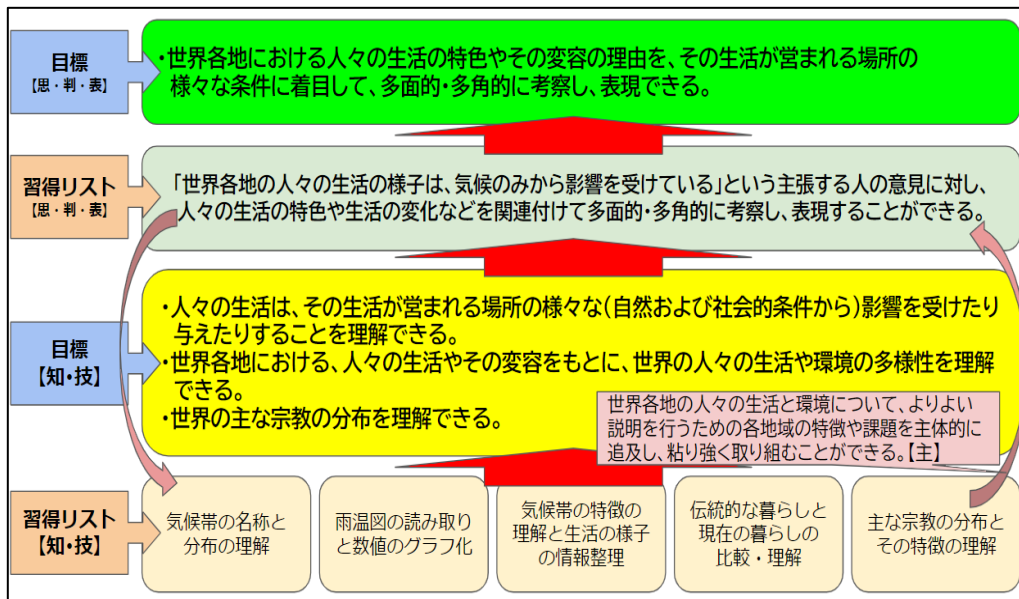


図5 「単元の目標と習得リストとの関連性」

世界各地の人々の生活と環境		
C	B	A
それぞれの気候区分に分られる伝統的な暮らしと今の暮らしの違いを理解できた	それぞれの気候帯に見られる特徴を気温や降水量、植生および衣食住などに整理してまとめることができた 「世界各地の人々の生活の様子は、気候のみから影響を受けている」という主張する人の意見に対し、人々の生活の特色や生活の変化などを関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができた	世界の気候帯の名称と主な位置関係を理解できた 表の数値を元に雨温図を作成することができた 世界の主な宗教の分布や特徴を理解できた 世界各地の人々の生活と環境について、よりよい説明を行うための各地域の特徴や課題を主体的に追及し、粘り強く取り組むことができた

表6 「振り返り Board」

4.3 主に生徒が学習履歴をいつでも確認するための取り組みへの活用

学習履歴の蓄積には、Google form, Gmail そして単元のワークシート（スプレッドシート）を活用する。生徒は、各単位時間終了後に学習内容や学習課題に対する考え等をまとめ、Google フォームに送信し（図7）、送信結果のコピー（図8）を生徒が自身の単元のワークシートに貼り付けることで、学習履歴を蓄積できるようにしている（図9）。

今年度の単元のワークシートは昨年度実践の課題を踏まえ、次の2点を意識して整備した。

- ① 生徒の学習履歴を記録する単元のワークシート（スプレッドシート）を一本化すること。
- ② 生徒が単元のワークシートを通して、単元間のつながりや1年間の学びの軌跡を確認できるようにすること。

その理由として、社会科における「内容のまとめ」と「単元」の関わりがある。「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（中学校 社会）」の第3編では、「内容のまとめ」と「単元」の関わりには、次の3つのケースがあると述べられている。

- ・ケース1：『『内容のまとめ』』 = 『単元』』
- ・ケース2：『『内容のまとめ』』 > 『単元』』
- ・ケース3：『『内容のまとめ』』 < 『単元』』

例えば第1学年 地理的分野「世界の諸地域」は、ケース2に該当する。「世界の諸地域」という中項目（内容のまとめ）の中に、「アジア州」—「ヨーロッパ州」—「アフリカ州」などの小項目が含まれる構成である。これまでは各小項目で設定する「単元を貫く学習課題」の内容はもちろんのこと、使用する単元のワークシートも単元ごとに新たなものを使ってきた。また、学習展開によっては同じく第1学年 地理的分野「世界各地の人々の生活と環境」において学習した内容（気候の特徴や人々の生活の様子など）と、各小項目での学習内容が関連する場合もある。そのため各単元で学習した内容は、その単元のみでの活用で終わらず、他の単元において活用する場面が多々見られるということになる。そのため、いつでも簡単に学習内容を確認でき、かつそれらを活用し、さらなる学習活動に生かすことができるようにしたのである。なお、単元のワークシートのフォーマットについて、教師側は必ずしも年度初めにすべての単元のフォーマットを完成させておく必要はなく、学習の経過や取り組みを見ながら、必要に応じて新たなフォーマットを配布することができる。

世界地理2-1-3を終えて

世界各地の人々の生活と環境の学習の各時間を終えて入力しましょう。今回は「温帯」の気候区分についてです。

このフォームでは、すべての回答者からのメールが自動的に収集されます。 [設定を変更](#)

4. この時間の学習を終えて「わかったこと」や「気付いたこと」をまとめましょう。(120字以内)

記述式テキスト (長文回答)

5. この時間の学習を終えて「疑問に思ったこと」や「もっと調べたいこと」をまとめましょう。(入力は任意。その場合の文字数は120字以内)

図7 単位時間後の Google フォーム (例)

世界地理2-1-3を終えて D 確認済み

Google フォーム - forms - receipts_morisy@google.com

Google Forms

「世界地理2-1-3を終えて」にご記入いただきありがとうございます。ご返信のメールを送信する

フォームの返事

メールを送信

世界地理2-1-3を終えて

4. この時間の学習を終えて「わかったこと」や「気付いたこと」をまとめましょう。(120字以内)

温帯は年を通して適度な雨が降り、温かい地域だということがわかりました。中でも3つの「地中海性気候」「西岸海洋性気候」「温暖湿潤気候」に区分され、温かい気候に適した植物が栽培や、かやぶきの家など、地域の特徴を活かした暮らしをしているようです。

図8 Gmail への回答のコピー

世界地理第2編 世界のさまざまな地域 第1章 世界各地の人々の生活と環境		思考ツールリンク
<p>「世界各地の人々の生活の様子は、気候のみから影響を受けている」という主張する人の意見に対して、あなたはどのような意見をお持ちですか？</p>		
単元前	<p>私の意見は、 やや賛成 です。なぜなら…</p> <p>確かに暖かい国と寒い国では、服装や建物の外装などに違いはあり、気候が影響していると言えるけれど、その国の昔からの文化や歴史なども大きく関係していると思うからです。</p>	81
<p>「各時間の学習でわかったこと、気付いたことなど」⇒「！」 「各時間の学習で疑問におもったこと、もっと調べたいことなど」⇒「？」</p>		
2-1	<p>！ 今回の学習では、寒帯、温帯に住む人々の衣食住について調べてまとめるなど、世界の暮らしや文化の違いについて詳しく知ることができました。カナダのイヌイットでは生肉を食べる文化があり、その理由は寒い環境で体温を維持するためと分かりました。</p>	
1	<p>？ 「世界各地の人々の生活の様子は、気候のみから影響を受けている」という疑問に、私はその国の伝統文化などが関係していると予想し、結果から予想は正しいと言えますが、自分と真逆の意見の人の話を聞くに興味深い点があり、詳しく調べたいと思いました。</p>	
2-1	<p>！ 温帯は年を通して適度な雨が降り、温かい地域だということがわかりました。中でも3つの「地中海性気候」「西岸海洋性気候」「温暖湿潤気候」に区分され、温かい気候に適した植物が栽培や、かやぶきの家など、地域の特徴を活かした暮らしをしているようです。</p>	
3	<p>？ 様々なデザインのおしゃれな洋服は、いつの時代からつくられていた(着られていた)のか調べたい。</p>	
2-1	<p>！ 乾燥帯は一年中気温が高く降水がほとんどない地域だということがわかりました。「砂漠気候」と「ステップ気候」の2つに区分され、ステップ気候は多少草原や水があるが、砂漠気候は一切なく、食料や水不足の深刻化で日本の支援を受けている地域もありました。</p>	
4	<p>？ こんなに暑い地域でどうして熱中症にならないのか、いつから砂漠になってしまったのか気になる</p>	
2-1	<p>！ 熱帯は一年中気温が高く降水量も多いため、年中葉が茂っていることがわかりました。この気候を活かして植物を育てたり、食材を蒸し焼きにするロボ料理というものがありました。水中に竹を打ち込んだ高床の住居に住むなど、快適に暮らす工夫がされていました。</p>	
5	<p>？ 料理する動物は日本のような家畜なのか、それとも狩りで仕留めたものなのか気になる</p>	
中間	<p>私の意見は、 やや反対 です。なぜなら…</p> <p>私は「やや反対」です。その地域の生活の様子はほとんどが気候の影響を受けていて、衣食住などの情報から明らかに暮らしの工夫に違い(決まり)があります。しかし生活習慣に視点を置くと、その地域で採れる作物などから伝統的な食文化が生まれたのではないかと思います。それにより、全てが気候によって決まったわけではないと考えました。</p>	159
2-1	<p>！ その気候帯の特徴を班でスライドをつくり、教科書や資料集を活用する力が身に付いたと思います。</p>	
6	<p>？ 調べたりするにつれて結果的にどのようなことがわかるか、共通点はあるか詳しく調べたいです。</p>	
2-1	<p>！ キリスト教について教科書や資料集を使って調べてみて新たな情報を知れたり、日本には様々な宗教が関わっているのだとわかりました</p>	
8	<p>？ 3つの宗教が集まる都市「エルサレム」について、どのような歴史があるのか、なぜ3つの宗教が同じ都市に集まっているのか詳しく調べたい</p>	
最終	<p>私の意見は、 やや反対 です。なぜなら…</p> <p>熱帯と寒帯の暮らしの様子では大きく違いがあります。例えば、暮らしの様子に視点を置くと、熱帯は一年中気温が高いため暑さを凌ぐために衣服や建物に涼しく快適に暮らせる工夫がされています。一方で寒帯は一年中気温が低いため、寒さを凌ぐために温かい服を着たり、かつては生肉を食べることで体温維持をするなどしています。このようなことから、「世界の人々の暮らしの様子は、気候のみから影響している」という事が言えると思います。しかし、宗教に視点を置くと、気候帯関係なく地域によって様々な宗教が分布されています。このため、豚肉が食べられない、教会でお祈りをするなど同じ気候帯でも宗教によって食や生活が異なるので、「気候のみ」とは言い切れないと思うからです。</p>	315
<p>+ ≡ 世地2-1 歴2-1</p>		

図9 生徒の単元のワークシート

4.4.1 主に自らにあった学習活動を調整するための取り組みへの活用

総論の3-2-1 および、3-2-2 でも述べているように、今年度はGoogle Workspace for Education のGoogle Classroom の採点機能、ルーブリック、限定コメントなどの機能を活用し、フィードバックを行う。学習成果物はGoogle Classroom で提出し、教師による評価（形成的評価）を行った後に返却する。形成的評価に関わる限定コメントは、その単元で育成を目指す資質・能力および習得リストの内容に基づき、C評価の状況にある生徒に対し、指導履歴として残すことを基本とする。また、ルーブリック上に記載している評価規準は、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」に掲載されている内容のまとめりの評価規準（例）を引用し、具体的なルーブリックの各段階の基準に関する説明は、生徒に示した習得リストの内容に基づき、その具体的な姿を文章として示し、教師からの限定コメントと照らし合わせていくことができるようにしている。これらの形成的評価の内容はGoogle Classroom 内に蓄積が続けられるため、生徒が自らの学びを調整するうえで活用することができるようにしている。

学習内容の蓄積は4.3にて述べたとおりGoogle フォームとGoogle スプレッドシート（ワークシート）を活用した。以下に、単元「第1学年 地理的分野 世界各地の人々の生活と環境」における実践事例を示す。

4.4.2 第1学年 地理的分野「世界各地の人々の生活と環境」の構成と指導履歴の蓄積

本単元では、単元を貫く学習課題として『世界各地の人々の生活の様子は、気候のみから影響を受けている』に対してあなたはどのような意見をお持ちですか?」を設定した。この学習課題を、単元の開始時・中間・単元末で生徒に対して行い、学習の深まりや変容を見とることが目的である。各気候帯の概要や雨温図の読み取り方は教師主導の一斉授業で行い、各気候帯の具体的な生活の様子についてはジグソー法を用いて生徒に資料作成（Google スライド：4人1班）を行う形式を用いた。なお、指導と評価の計画については、次頁の表1において示した。

教師からの限定コメント（指導履歴）を残した場面は大きく2つである。1つ目は各気候帯について、生徒が作成した資料の内容についてのコメントを残している。これは資料の見やすさや説明内容の正誤を正すことを主として行っている。

2つ目は中間まとめおよび最終まとめの記述内容についてのコメントである。中間まとめには形成的評価としてABCの評価を、最終まとめには総括的評価としてABCの評価をつけて生徒に返却をした。最終まとめにおけるルーブリックは表2の通りである。また、最終まとめ提出時点でB評価の「おおむね満足できる」を満たしていないと判断した生徒には限定コメント（指導履歴）を残し、かつRetake（リテイク）と称して、内容の修正と再提出の機会を1度与えた。なお、今回の課題において、最終まとめ提出時にB評価の条件を満たさなかった数は104名中27名おり、そのうち16名がRetakeを行い、学習のまとめの改善を図ることができた（図10および表3）。

指導と評価の計画		評価計画		
時数	学習活動	知	思	主
1	○単元を貫く学習課題に対する単元初の生徒の考えの調査。 ○雨温図の見方や書き方、気候帯の種類と分布について理解する。		●	●
2~6	○各気候帯のあらまし(気温・降水量・分布など)の説明(教師解説)。 ○各気候帯の衣食住や伝統的な暮らしや習慣に関する資料作成(生徒)。	①		②
7	○単元を貫く学習課題に対するディスカッションと、考えの中間まとめ。		●	●
8~9	○高山気候と熱帯の比較に関する資料作成(生徒)。 ○主な宗教の衣食住や伝統的な暮らしや習慣に関する資料作成(生徒)。	①		②
10	○単元を貫く学習課題『世界各地の人々の生活の様子は、気候のみから影響を受けている』に対してあなたはどのような意見もちますか?』に対する作成資料の検討を踏まえたディスカッションと、生徒の最終まとめ。		②	③
11	○単元テスト(CBT)の実施。	②	③	
評価の内容				
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度		
①生徒作成資料(Google スライド) ②CBT 結果	●Googleform 記載内容 ②単元のまとめ ③CBT 結果	●Googleform 記載内容 ②生徒作成資料(Google スライド)作成の過程 ③ 単元のまとめ作成の過程		

※○主に評定に用いる評価 ●主に学習改善につなげる評価

表1 指導と評価の計画表

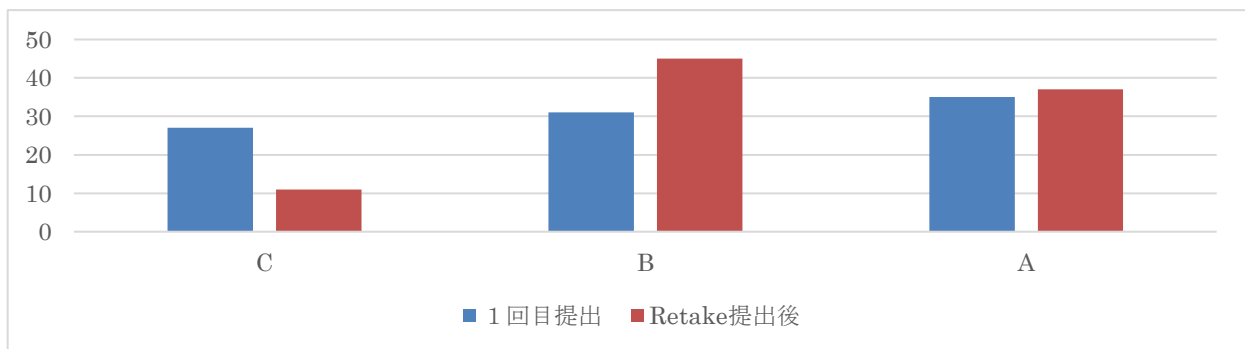


図10 最終まとめの評価結果と最終まとめ (Retake) 後の評価結果

A	単元を貫く学習課題に対する自らの考えをまとめた内容について、 (1) 多面的・多角的な視点から、(2) 学習した内容を根拠として、 (3) その説明内容に具体性がみられ、他者にとってもわかりやすい説明ができています。
B	「単元を貫く学習課題に対する自らの考えをまとめた内容について、 (1) 多面的・多角的な視点から、(2) 学習した内容を根拠として 説明ができています。

表2 本単元の最終まとめにおけるルーブリック (思考・判断・表現)

最終まとめ の 記述内容 (C)	世界各地の人々は、 <u>気候に合わせて服装や住居を変えて快適に生活できるようにしたり、その気候で育ちやすい植物を食べたり</u> 、基本は気候に影響を受けた生活をしているようでした。でも、宗教の関係で服装を変えたり、食べられないものがあったり、行事があったりしていたので生活の全てが気候の影響を受けたものではないと思いました。
↓	教師の フィード バック 1) 多面的・多角的な視点からの説明が不十分であり、説明内容が抽象的である。 2) 学習内容を根拠として、の部分について説明内容や例示が不十分である。
	最終まとめ (Retake) の 記述内容 (A)
最終まとめ の 記述内容 (C)	西岸海洋性気候では、直射日光を防ぐためひさしを窓につけたり、床を高くして永久凍土が溶けるのを防いだりしていますが、気候が違うにも関わらず日本と同じ服装をしたりするなど西岸生海洋気候は服装に関しては気候と関係していません。また、食べ物も食べたいものを気候に関係なく食べています。これらのことから僕はやや反対という結論に達しました。
↓	教師の フィード バック 1) 多面的・多角的な視点の選択はよいが、説明内容が抽象的である。 2) 学習内容を根拠として、の部分について説明内容や例示が不十分である。 ※) 気候帯とその特徴の説明が合致していないものがある。
	最終まとめ (Retake) の 記述内容 (B)

表3 生徒の最終まとめと最終まとめ (Retake) 後の記載内容の比較 (例)

4.4.3 第3学年 公民的分野 第4章「私たちの暮らしと経済」における指導履歴の蓄積と共有

本章は、「消費生活と市場経済」、「生産と労働」、「市場経済の仕組みと金融」、「財政と国民の福祉」、「これからの経済と社会」で構成されている。単位時間ごとに設定した学習課題に対する振り返りを、生徒が授業後に Google フォームで提出し、教師がその内容を見とることとした。本単元では、生徒へのフィードバックの方法を「個別のコメントを提供する方法」ではなく、「提出内容と記載傾向を生徒全体で共有する方法」で蓄積した。なお、共有の方法としては、生徒の Google フォームへの回答内容を集約したスプレッドシート

を、教科で立ち上げた Google サイトに掲載した。(図 11)

生徒の回答を教師が確認し、その内容を教師が「学習感想・学習印象系回答(図 11 青)」、「学習内容・学習方法・ポイント系回答(図 11 緑)」、「学習課題・単元課題考察系回答(図 11 黄)」に分類した。生徒の回答について、教師は次の時間の冒頭でいくつかの回答内容を取り上げて解説・補足を行う。その際に、「学習感想・学習印象系回答」、「学習内容・学習方法・ポイント系回答」中心の回答から、「学習課題・単元課題考察系回答」寄りの回答を生徒ができるようにフィードバックを全体指導の中で行った。フィードバックの際に意識していた点は次のとおりである。

- ①学習の感想や印象、学習の内容や方法についての振り返りを、課題に沿って考察をするようにする。
- ②学習課題に対して、多面的・多角的な視点から考察ができるようにする。

という点を確認した。この取り組みを、第4章全体を通じて行っていった。その結果、生徒の回答における「学習課題・単元課題考察系回答」のできる生徒が増加した。(図 12)

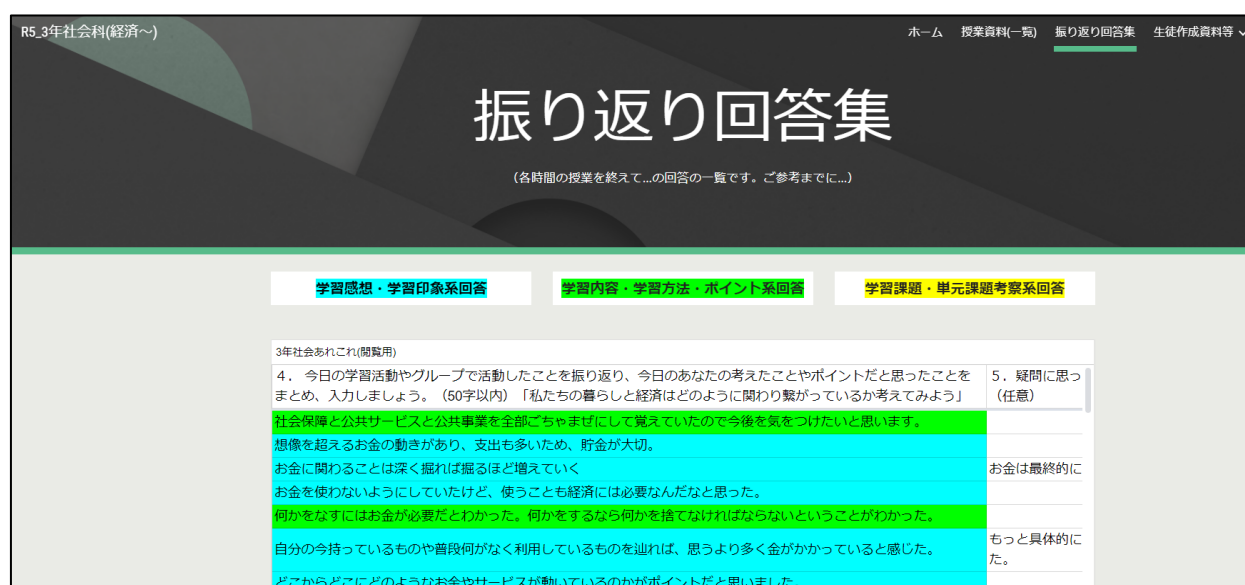


図 11 Google サイトでの生徒の記載内容の共有方法

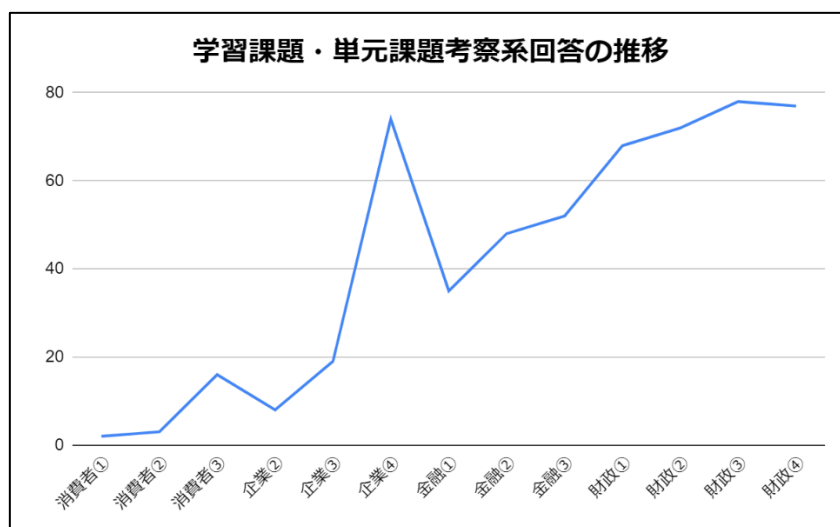


図 12 Google サイトでの生徒の記載内容の共有方法

4.5 主体的に学習に取り組む態度の評価への活用

主体的に学習に取り組む態度の評価については、「知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について、試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価します」⁴⁾と整理されている。

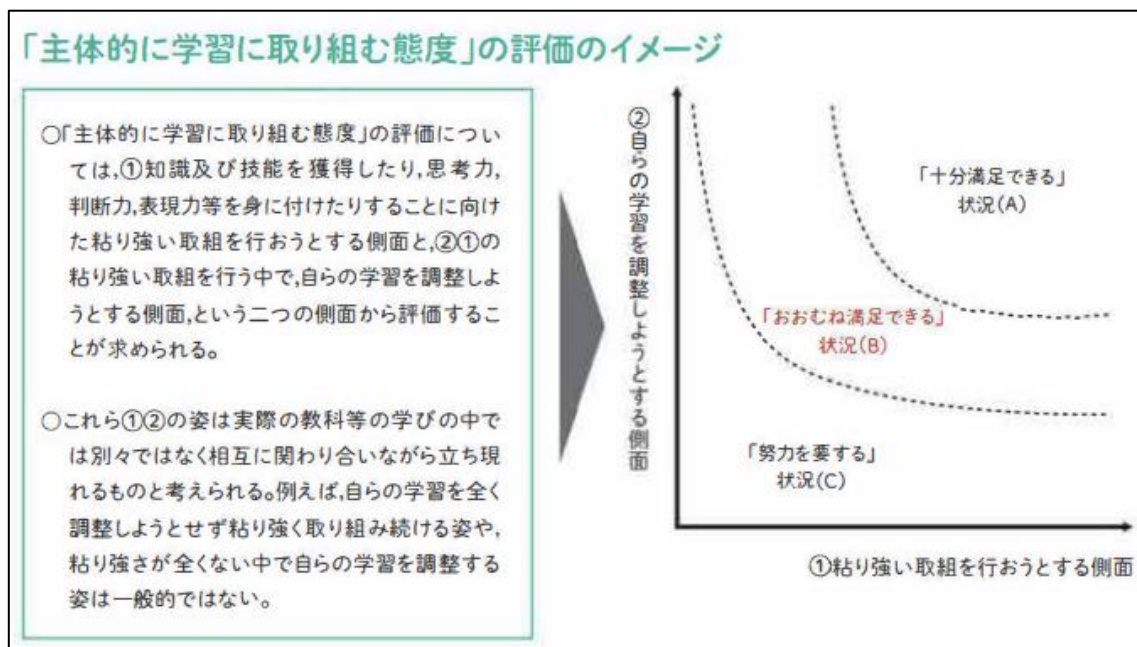


図 13 主体的に学習に取り組む態度の評価イメージ⁵⁾

今回、指導履歴として記録に残す内容は、「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力の育成のために、教師が生徒に残したものである。この指導をもとに、生徒が各課題に対して、試行錯誤しながらより良い成果物を作成しようと、粘り強い取り組みを行ったり、または自らの学習を調整していくこととなる。したがって、その「生徒が課題に取り組む」→「教師が育成したい資質・能力に基づき、指導履歴を残す」→「生徒が指導履歴を見て自らの学習を調整する」といった過程を、主体的に学習に取り組む態度の一つとして評価を行うことにしている。教師の指導履歴に基づき、改善を図ろうと粘り強く取り組む様子は多くの生徒にみられる。ただし、その内容が資質・能力に迫れているかについては、自らの学習を適切に調整できているかどうかという視点から見とることができると考えている。

5 成果と課題

<成果>

- 学習内容の蓄積は、生徒が学びの軌跡を生徒自身や教師が目視できるため、教師のその後の指導改善や学習活動の見直しを図りやすくなった。
- 限定コメント（指導履歴）を見た生徒が、自らの学習内容を振り返り、かつ今後の学習内容の調整に対する見通しをもって取り組むことができた。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の観点に関わり、「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」に対するアプローチが可能となった。

<課題>

- 「生徒の活動」→「教師の評価とフィードバック」→「生徒の学習調整」の期間が十分でない場合、課題の再提出の質が向上しづらいケースがみられた。
- 学習履歴の活用の仕方に対する、生徒間での格差が見られたため、共通理解や活用方法の指導が継続的に必要である。

6 おわりに

本研究に関する本校社会科としての実践はどの分野、どの単元でも実践が可能な内容である反面、社会科の目標である「公民としての資質・能力の基礎の育成」に迫るためには、どのように学習活動を進め、どのようにその資質・能力を身に付けさせていくのかという点を一層明確にしていく必要がある。とにかく指導履歴を残し続けることも必要ではあると思うが、今後は一人一台の環境の長所を踏まえて、意図的・計画的な学習履歴の蓄積と利活用の方法を明らかにしていきたい。特にこれから先の時代は「個別最適な学び」に関わる指導の個別化や学習の個性化が一層求められていくと思われる。だからこそ、教科として身に付けるべき資質・能力を明確にし、その力を身に付けることができる社会科の授業を目指して、実践を重ねていきたい。

(文責 山下 尚也)

<引用文献>

- 1) 学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料 (令和3年3月版) 1頁
- 2) 教育課程部会における審議のまとめ (令和3年1月) 17頁
- 3) 附属函館中学校 令和5年度研究紀要総論 11頁
- 4) 児童生徒の学習評価の在り方について (報告) (平成31年1月) 10頁
- 5) 「学習評価の在り方ハンドブック 小・中学校編」国立教育政策研究所教育課程研究センター 9頁

<参考文献>

- ・「中学校学習指導要領」
- ・「中学校学習指導要領解説 社会編」
- ・『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」国立教育政策研究所教育課程研究センター
- ・「北海道教育大附属函館中学校 令和4年度社会科研究紀要」
- ・「1人1台端末活用のミライを変える！BYOD／BYAD 入門」

中川一史・北海道教育大学附属函館中学校編著 明治図書

- ・「ヤマ場をおさえる 学習評価 中学校」石井秀真・鈴木秀幸 編著 図書文化